

# 高校数学科初任教員向けの授業づくりハンドブックの作成 —生徒が自主的・主体的に学ぶための指導を目標に—

学籍番号 169980  
氏名 西田幸弘  
主指導教員 森田英嗣

## 1. 本実践課題研究の流れ

### 1.1 先行研究について

初任教員向けの授業づくりの先行研究は少なからずあるものの、そのほとんどは小学校・中学校が対象であり、高校を対象としたものはほとんどみられない。しかし、初任教員についての先行研究をみると、初任教員が授業に関して困難を抱えることは明白である。そのため、本実践課題研究において作成するハンドブックは、高校を対象とした数少ないものとして意義があると考えられた。

### 1.2 基本学校実習Ⅰについて

どのような指導が行われているか、またどのような理由に基づいているのかを明らかにすることを目的に、現職教員の授業の見学と、授業後の聞き取りを行い、授業を構想する基本的なポイントと生徒が自主的・主体的に学ぶための指導のポイントを分析した。その結果、授業構想のポイントは「学年」「学力」「文系・理系」、生徒が自主的・主体的に学ぶための指導のポイントは「生徒が見通しをたてられるようにする」「教材等の準備」「学びの保障」「生徒の意識を変える」が挙げられた。しかし、初任教員にとって生徒が自主的・主体的に学ぶための指導を行うのはハードルが高く、ハンドブックには基本的な授業づくりについて記載する必要があると考えた。

### 1.3 基本学校実習Ⅱについて

前実習をふまえ、基本的な授業づくりの内容を充実させることを目的とし、授業づくりの基本的なポイントと指導技術に注目して、授業見学と聞き取りを行った。その結果、留意点として「授業の目標を決める」「単元の流れ（単元案）を決める」「系統性を意識する」、指導技術として「生徒を指名する（あてる）方法を工夫する」「板書方法を統一する」「文字を変える」「基礎と応用を繋ぐ」が挙げられた。また、生徒が自主的・主体的に学ぶための指導として候補にあがった「目標を設定する」「必要性を感じさせる」について、授業実施に組み込み、効果があることを確認した。

### 1.4 発展課題実習Ⅰについて

基本学校実習Ⅱにおいて作成したハンドブック（第二案）の検証を行うことを目的とし、ハンドブック（第二案）に基づいた授業と現職教員の授業を比較し、その共通点と相違点を分析した。その結果、発展課題実習Ⅰで初めて見学をした教員の授業についても共通点がみられ、ハンドブック（第二案）は実際に使えるものになっていることが分かった。しかし、共通点として挙げられたものにおいて、指導の効果に違いがあることが課題となった。また、相違点もみられたが、それはハンドブック（第二案）の不足点というよりは、教員による差だと考えられた。

## 1.5 発展課題実習Ⅱについて

発展課題実習Ⅰにおいて作成したハンドブック（第三案）の検証を行うことを目的とし、指導の効果について検証するため、ハンドブック（第三案）に基づいた授業の構想・実施に加え、授業の様子をビデオカメラで撮影し、分析した。そして、現職教員の授業と比較して効果に違いがみられたポイントについて、現職教員にインタビューを行った。その結果、指導方法としては共通していても実施にどのような中身になっているかに違いがあった。ハンドブックでは指導方法を示しているだけの項目が多いため、具体的にどのように行うかの例も示す必要があることが分かった。

# 2. 作成したハンドブックの構成

## 2.1 授業とは（0章・1章）

授業の構造を家に例えて、まず基礎の部分が授業づくり・指導の軸にあたる。そして、柱の部分が授業設計（授業の方向性）になり、中身の部分が授業の目標や指導技術になる。そして、屋根の部分が授業の付加価値（生きる力の育成等）や根本的な目標になる。また、授業のポイント（要素）は「参加・不参加」「知識の習得」「生きる力の育成等」「態度」の4点である。初任教員はまず「知識の習得」を満たすようにし、その上で生きる力の育成等を目指すことになる。

## 2.2 授業づくりの基礎（2章・3章・4章）

授業づくりの基本的な部分は「学年」「学力」「文系・理系」になる。2章では、学年と学力の各組み合わせについての具体例を記載した。そして、授業づくりの留意点と指導技術を記載し、実習の中で一部の教員からみられたものや筆者自身が授業実施の中で見出したものは6章に記載した。その後、4章において、具体例（例：2年・高位層・理系の「さまざまな数列の和」の単元）を8点記載した。

## 2.3 生徒が自主的・主体的に学ぶための指導（0章・5章）

自主的を「与えられた課題に対して、取り組んでいくこと」、主体的は「自身で課題を見つけて取り組んでいくこと」と定義した。加え、自主的・主体的の段階・分類と指導の分類、判断方法を記載した。生徒が自主的・主体的に学ぶための指導について「見通しをたてる」「教材等の準備」「勉強法（課題の見つけ方・解決方法）を身に付けさせる」「学びの保障」「生徒の意識を変える」「目標を設定する」「必要性を感じさせる」「継続的に行う」の8点を記載した。

## 2.4 困ったときの対処法（6章）

6章では、日々の授業で困ったときの対処法を記載した。具体的には「生徒に伝わっているかどうか分からない（手ごたえがない）」「板書内のメモ（本筋以外）の区別を生徒ができていない」「次の時間までの課題を出しても、生徒がしてこない」「授業の時間配分がうまくいかない」「生徒がよく話す」「生徒が授業中の練習問題を解かない」の6点を挙げた。

## 2.5 指導案フォーマット

ハンドブックを実際に授業づくりに使用できるようにするため、ハンドブックに対応した指導案のフォーマットを作成した。初任教員向けのため、あまり斬新的過ぎない形式とした。